

日本農芸化学会2016年度大会

バイオ・ラッド ラボラトリーズ ランチョンセミナー LS2-4

3月28日（月） 12:00～12:50
会場：札幌コンベンションセンター
小ホールE会場



抗体を用いた タンパク質定量アプリケーションの 最新情報

演題1 抗体を用いた前処理、MSアプリケーションのご紹介
中田 宣之 (バイオ・ラッド ラボラトリーズ マーケティング)

演題2 ウェスタンブロッティングにおける最新情報と正確なデータ取得について
熊谷剛史 (バイオ・ラッド ラボラトリーズ フィールドアプリケーションソリューション)

タンパク質の定量は、タンパク質の発現レベル確認や実験の前処理など研究には不可欠な作業ですが、夾雑物の存在や目的タンパク質の低い発現量（絶対量）、実験手法自体が持つ再現性や正確性の問題等により、再現性高く、正確なデータを得ることが難しいものでもあります。

実験手法による様々な問題点

◆ ウェスタンブロッティング

数多くのステップを経るウェスタンブロッティング実験では、手技や装置に起因する誤差やバックグラウンド、非特異的反応など、定量性の確保が難しい
近年、抗体品質の確認（Validation）が議論されている

◆ 免疫沈降

非特異的に結合したタンパク質の混入
回収効率

◆ Immuno-MRM (Multiple Reaction Monitoring-Mass Spectrometry)

目的タンパク質（ペプチド）を内在性レベルで検出するために前処理として濃縮が必要だが、濃縮に用いる抗体の作成にかかる時間やコスト、品質の確保が難しい

本ランチョンセミナーでは、抗体を用いたそれぞれの実験手法においていかに問題点を克服し、正確で再現性の高いデータを得るにはどうしたらよいかについて、Tipsや製品ソリューションをご紹介します。

BIO-RAD

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
www.bio-rad.com